

2024 年度事業報告書

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

事業概要

2024 年度は、公益社団法人日本地震学会の主要な事業である研究発表会の開催、学会誌の刊行および EPS 運営の支援、学会情報誌の刊行およびメールニュースの発行、広報紙の刊行、学会賞の表彰、国内外の関連学協会との連携等の活動を継続実施し、地震に関する学術の振興と社会への普及を図った。

秋季大会においては、「情報科学との融合による地震研究の加速」「令和 6 年能登半島地震」と題した 2 つの特別セッションおよび「2024 年 8 月 8 日 日向灘の地震とその影響」と題した緊急セッションを開催した。また、2024 年は 1964 年新潟地震から 60 年という節目にあたり「新潟から神戸にかけておこる被害地震に迫る - 2024 年能登半島地震から考える - 」と題した一般公開セミナーを開催し地域住民への知識普及に努めた。

地震学の知見の普及と人材育成のために、特別シンポジウム、強震動講習会、教員サマースクール、地震の教室、地震火山地質こどもサマースクール、地震学夏の学校、ジオパーク専門員らへの地震学勉強会、ジオパーク巡検を開催したとともに、防災推進国民大会 2024 に参加した。

外部団体との連携として、防災学術連携体の活動へ参画した。地学オリンピック日本委員会への支援、各関連学術団体の会合に参加するなど、情報収集や連携強化を進めた。各種団体が主催する賞に会員を推薦した。

I. 事業

1. 研究発表会・講演会等の開催

1. 1 日本地球惑星科学連合 2024 年大会

日本地球惑星科学連合及び関連する他学会と共同で日本地球惑星科学連合 2024 年大会を開催した。地震学関係のレギュラーセッション（地震発生の物理・断層のレオロジー、地震活動とその物理、地殻構造、地震観測・処理システム、地震予知・予測、強震動・地震災害、地殻変動、津波とその予測、活断層と古地震）については、大会・企画委員会がコンビーナを務め、プログラム編成を行った。

期 日：2024 年 5 月 26 日（日）～5 月 31 日（金）

場 所：幕張メッセ及びオンラインのハイブリッド

1. 2 日本地震学会 2024 年度秋季大会

日本地震学会 2024 年度秋季大会を下記の通り開催した。参加者は 713 名（会員 599 名、非会員等 114 名）であった。講演数は、口頭 226 件、ポスター 205 件の合計 431 件であった。そのほかに、日本地震学会賞、論文賞、若手学術奨励賞の授賞式および記念講演を、今年度に限り 2023 年度と 2024 年度の 2 年分の授賞式を行った。2023 年度分として日本地震学会賞 1 名、若手学術奨励賞 3

名、技術開発賞 3 団体、2024 年度分として日本地震学会賞 1 名、若手学術奨励賞 3 名、技術開発賞 2 団体の受賞者による記念講演を大会 1 日目の午後に設けた。受賞記念講演を含む 20 の一般セッションに加え、「情報科学との融合による地震研究の加速」「令和 6 年能登半島地震」と題した 2 つの特別セッションおよび「2024 年 8 月 8 日 日向灘の地震とその影響」と題した緊急セッションを開催した。学生による優れた研究発表の奨励、研究発表技術の向上を目的とした学生優秀発表賞の審査を行い、10 名が受賞した。

期 日：2024 年 10 月 21 日（月）～10 月 23 日（水）

場 所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター（新潟市）

1. 3 一般公開セミナー「新潟から神戸にかけておこる被害地震に迫る－2024 年能登半島地震から考える」

地震学の研究成果を一般社会に還元し、地震に関する知識を広く普及することを目的に、会員以外を対象とした普及啓発活動として開催した。3 名の講師による講演を行い、109 名の参加者があった。2024 年は 1964 年新潟地震から 60 年という節目にあたり、新潟県や周辺地域で発生する被害地震について、最新の知見をわかりやすく地域住民に伝えることを主眼にセミナーを企画し、2024 年 1 月 1 日、能登半島での地震の発生を受け、セミナーのタイトルに「2024 年能登半島地震から考える」という文言を加え、セミナーの内容はさらに現実味を帯び、地域住民にとって一層関心の高いものとなった。各講演の後には活発な質疑応答が交わされ、来場者が地震に対して高い関心を持っていることが窺えた。また、来場者を対象にアンケート調査を実施し、61 名から回答を得た。参加者の年齢層や、講演のわかりやすさや長さについての評価など、今後のセミナー運営に役立つ貴重な情報を収集した。

期 日：2024 年 10 月 20 日（日）13 時 30 分～16 時 30 分

場 所：朱鷺メッセ 4 階 国際会議室

講師と内容：

鷺谷 威（名古屋大学減災連携研究センター）

「新潟－神戸ひずみ集中帯と内陸地震発生の謎に迫る」

平松 良浩（金沢大学理工研究域地球社会基盤学系）

「令和 6 年能登半島地震と新潟県の地震」

田村 圭子（新潟大学危機管理本部危機管理センター）

「今後の発生が想定される地震被害にいかにかそなえるか ～2024 年能登半島地震の実際から考える～」

1. 4 特別シンポジウム

「地震学を社会に伝える連絡会議」では、徳島大学環境防災研究センターと共催で特別シンポジウム「最新科学で備える南海トラフ地震」を、徳島大学常三島けやきホールにてハイブリッド形式で開催した。令和 6 年能登半島地震の教訓と南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）に関する知見と今後のリスクについて最新の地震科学と工学に基づいて解説・議論をおこなった。会場参加者の人数は 81 名、オンライン参加者の人数は 179 名であった。また、特別シンポジウムの様子は複数のメディアで取り上げられ大きな反響があった。

期 日：2024 年 2 月 22 日（土） 13 時 30 分～16 時 00 分（開場 13 時 00 分）

場 所：徳島大学常三島けやきホール（徳島市南常三島町 1-1）

主 催：徳島大学環境防災研究センター・日本地震学会

後 援：徳島地方気象台

プログラム：

13：30 開会挨拶

松木 均 徳島大学理事（副学長）

13：35 講演①「令和 6 年能登半島地震：地域への情報提供と備え」

平松 良浩 金沢大学理工研究域地球社会基盤学系・教授

14：05 講演②「複合災害と建物の耐震化について」

久田 嘉章 工学院大学建築学部まちづくり学科・教授

14：35 講演③「さまざまな津波想定」

馬場 俊孝 徳島大学大学院社会産業理工学研究部・教授

15：05 パネルディスカッション「どうだった、どうする南海トラフ地震臨時情報」

〈進 行〉入江 さやか 松本大学地域防災科学研究所・教授

〈パネリスト〉平松 良浩, 久田 嘉章, 馬場 俊孝

勝間 基彦 徳島県危機管理部長

土橋 琢史 エフエム徳島パーソナリティー

15：55 閉会挨拶

加藤 愛太郎 日本地震学会副会長（東京大学地震研究所・教授）

〈司会〉 松重 摩耶 徳島大学環境防災研究センター・助教

1. 5 「強震動予測－その基礎と応用」講習会

地震動評価に携わる技術者・実務者を対象に、強震動予測の新しい研究成果を普及する目的で以下の講習会を行った。2024 年度は、下記の内容で講習を企画した。参加者は 70 名（現地参加 18 名、オンライン参加 52 名）であった。講習会の内容についてニュースレターで報告を行った。

期 日：2024 年 11 月 25 日（月）10 時 00 分～16 時 30 分

場 所：東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室 AB 及びオンラインでのハイブリッド開催

講師と内容：

切刀 卓 （防災科学技術研究所） 「強震観測の歴史と現在」

司 宏俊 （サイスマリサーチ） 「強震記録に基づく地震動予測式の構築, 利用と最新動向」

友澤 裕介（鹿島建設） 「強震観測記録を活用したスペクトルインバージョン法と統計的グリーン関数法への適用」

1. 6 教員サマースクール

地震の研究者と小・中・高等学校教員との連携と、地震教育の現状に即した知識普及活動の実現を目指して、教員サマースクール2024「平成7年（1995年）兵庫県南部地震による災害のその後と今後の大地震への備え in Osaka」を2024年8月21日（水）・22日（木）の2日間開催した。

平成7年（1995年）兵庫県南部地震により地盤が沈降しコンクリート護岸が失われたことによって生じた干潟等の観察、1854年6月14日、同年11月4・5日と立て続けに発生した大地震による被害を後生へ伝えるために建立された大地震両川口津浪記碑の見学などを通して、過去からの教訓、近い将来の発生が懸念されている南海トラフ地震での強震動による影響や津波襲来に思いを馳せた。あわせて津波・高潮ステーション等を見学し、大阪低地での高潮による影響との比較を通して、大阪低地での暮らしのあり方を考えた。さらに、上町断層による地形の観察を通して、内陸型地震による都市域での被害や備えについても考え、湧水などの恵みと合わせ、防災・減災に対する意識を高めた。23日（金）にはオプションツアーとして、野島断層保存館、神戸港震災メモリアルパーク、人と防災未来センターを見学した。地震や津波、洪水の影響を受ける地での暮らしと自然の恵み、防災・減災について深く考えることができた3日間であった。

交通の便が良い地での開催だったためか、定員20名に対して参加申込者数は21名と定員超過となり、一般参加者21名（うち学生2名）、講師2名、学校教育委員会委員10名の合計33名であった。移動には主に公共交通機関を利用した。

1. 7 地震の教室

会員以外を対象とした地震に関する知識を広く普及することを目的とし、2024年11月3日（金・祝）午前に新潟県立自然科学館を会場に地震の教室（親子向け／一般・教員向け）を開催した。親子向け教室の開催にあたっては関西地震観測研究協議会広報分科会の協力を得て実施した。

親子向け教室では「地震計を作って、ゆれを測ってみよう！」として、身の回りに普通にある物を使った小学生でもできる工作技術にて、簡単な地震計を作ってもらい、揺れの大きさ競争などを通して地震防災・減災についても解説した。事前申し込み制で定員の20名に達し、小1～中2の17名（当日欠席3名）の参加があった。

一般・教員向け教室では、「ご家庭で、小・中・高の授業で、すぐに使える地震を教える教材紹介」として、家庭や学校で簡単に作ることができる、地震を考える・教える教材を紹介した。参加者は親子向け教室の参加者も合わせて合計60名程度であった。事前に知って参加した人のほか、自然科学館への来場者で立ち寄った親子連れが多かった。

1. 8 第23回地震火山地質こどもサマースクール吉野川大会

日本火山学会、日本地質学会、三好ジオパーク構想推進協議会、徳島県子ども科学館との実行委員会を結成し、四国を流れる大河「吉野川」を舞台として、「吉野川沿いに変わっていく地形や風景を見ながら、吉野川の成り立ちや吉野川で起こった災害や文化」テーマに、自然災害の本質を理解する感性を次世代に伝えることを目的に、第一線の研究者が小中高生の視野に立って、地形の観察や実験の指導と講義を行うとともに、地震・火山・地質をテーマにした児童生徒向けのプログラムを開催地域と連携して行った。2日目午後にはサマースクールで学んだことを子供らが発表するフォーラムを開催した。参加者への事後アンケートでは多くの参加者から「とても楽しかった」や「楽しかった」という回答が得られた。

期 日：2024年8月7日(水)・8日(木)

場 所：徳島県三好市及びその周辺地域

参加者：28名（小学生11名、中学生11名、高校生6名）

講 師：講師：西山賢一（徳島大学）、山崎新太郎（京都大学）、中尾賢一（徳島県立博物館）、

馬場俊孝（徳島大学），道家涼介（弘前大学），横山光（北翔大学）

1. 9 若手育成企画「地震学夏の学校 2024」

若手育成のため、「地震学夏の学校 2024」を現地にて対面で開催した（企画・実施：地震学夏の学校 2024 世話人）。本年度は「地震学夏の学校 2024: 地震現象のマルチスケール性」というテーマで開催され、学生 50 名の参加があった。参加者の多くは理学専攻だったが、工学や社会安全学を専攻する参加者もあり、幅広い層からの参加があった。7 名の講師による講義のほか、ポスター発表や巡検が行われた。講師からの熱意が大変込められた講演や研究生活の様子などが参加者に伝えられ、質疑応答も活発に行われた。今回の夏の学校はセミナー形式での開催であり、参加者の横の繋がりの醸成に重点を置いて通常より多い 50 名規模とした。事後のアンケート結果（回答数 43）によると、満足度について平均 4.74 の高評価を得た。

期 日：2024 年 9 月 11 日（水）～13 日（金）

場 所：京都府京都市・京都大学吉田キャンパス内・理学研究科セミナーハウス

講師と内容：

飯尾 能久（京都大学防災研究所）「地震の始まりの始まりの解明と高サンプリング地震観測」

伊藤 喜宏（京都大学防災研究所）「世界の沈み込み帯から：海底観測で見る大地震とスロー地震」

金子 善宏（京都大学理学研究科）「前震はなぜ起こるのか？数値シミュレーションが示唆する地震活動の挙動とマルチスケール性」

北 佐枝子（建築研究所国際地震工学センター）「沈み込むプレート内地震とその発生に至る過程」

溜淵 功史（気象庁地震火山部）「地震カタログからみる海の小さな地震」

直井 誠（北海道大学理学研究院）「微小破壊から探る震源の物理」

山下 太（防災科学技術研究所）「大きな岩石試料を使った摩擦実験で何が分かるか？」

1. 10 社会活動

金森名誉会員からの寄付金をもとに設置した「社会活動基金」の活動として、例年基金事業として出展している防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）に参加し、日本地震学会セッションを行った。会場来場者は約 40 名であった。参加者には講師による解説動画（各 20 分程度）を事前に視聴してもらい、事前質問を受けつけた。講師らは事前質問などを踏まえて、それぞれ要点をおさらいし、その後、熊本大学の竹内裕希子教授が 3 人に質問をする形で進行し、会場からの質問も受けつけた。

最後は、竹内教授から「理解をしようとする、聞けば聞くほど『分からない』というブラックボックスになる。科学としてどこまで言えるのか。分からないという言葉を使わないで説明ができるのはいつごろになるのか。分からないが、分かる 때가来るのだろうか」という問いが立てられ、「社会的に、具体的な議論が出来る場作りが必要」というコメントで締めくくられ、科学・研究成果の社会との共有という面で本質的で、地元の熊本地震についての理解のためにも、非常に有意義な議論となった。また、現地でのインターネット環境が十分でなかったため、事後に講演のアーカイブ動画を学会 WEB ページおよびぼうさいこくたい 2024 のイベントページから閲覧できるよう公開した。

ぼうさいこくたい 2024 in 熊本 日本地震学会セッション

「2016 年熊本地震はどんな地震だった？ 何が分かって、分かってないの？ 専門家に根掘り葉掘り聞いてみよう」

期 日：2024 年 10 月 20 日（日）10 時 30 分～12 時 00 分

場 所 熊本城ホール 3F 会議室 A1

共 催：活断層学会

講 師：松本 聡（九州大学）「熊本地震の地震とは」

鈴木 康弘（名古屋大学）「熊本地震と活断層」

大倉 敬宏（京都大学）「熊本地震と阿蘇火山」

1. 1 1 ジオパーク専門員らへの地震学習会

ユネスコ世界ジオパークのガイドラインに沿い、地震学の基礎知識の学習会を、日本各地のジオパーク専門員等を対象に、オンラインにて実施した。参加者は約 50 名であった。参加者からの活発な質疑応答があり、事後アンケートでは、これまで疑問に思わなかった地形の成因について知ることができて視野が広がった、専門性の高い内容を論理的な構成で、また平易な用語を織り交ぜて丁寧な説明していただけて理解に繋がった、といった意見が寄せられた。また、参加者にとっては理解が追いつかないだろうと思った箇所は幾つかあったが、時間の制約もあり、うまくフォローできなかったことが運営上の反省点として挙げられる。今後はより多くの参加者に内容を理解してもらえるように検討したい。

地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学 8：日本列島の大地形の成因について」

主 催：日本地震学会ジオパーク支援委員会

共 催：日本ジオパーク学術支援連合

後 援：日本ジオパークネットワーク

期 日：2024 年 11 月 22 日（金）14 時 00 分～15 時 45 分

場 所：Zoom によるオンライン開催

講 師：深畑 幸俊（京都大学防災研究所）

コメンテーター：青木 賢人（日本地形学連合；金沢大学），

山田 和芳（日本第四紀学会；早稲田大学）

1. 1 2 ジオパーク巡検の開催

新潟市で開催された秋季大会後の 10 月 24 日（木）にジオパーク巡検（協力：佐渡ジオパーク）を実施した。参加者は 17 名（非会員 1 名含む）であった。

協 力：佐渡ジオパーク

期 日：2024 年 10 月 24 日（木）

場 所：佐渡ジオパーク（新潟県佐渡島小木半島エリア）

2. 学会誌その他の刊行物の発行

2. 1 学会誌「地震」

「地震（学術論文部）」は、第 77 巻として 12 編の論文や報告等を電子版として出版した。それらは、若手学術奨励賞の受賞記念論文を 2 編、技術開発賞の受賞記念論文を 1 編含む（いずれも「解説」）。記事の種類毎の件数及びページ数は下記の表の通りである。その他に、訂正を 1 編出版した。それらの論文や報告等は J-STAGE で公開されている。加えて、冊子体を隔月で計 6 冊発行し、各号についてそれぞれ 600 部印刷した。

種類	件数	ページ数
論説	4	58
総合報告	-	-
史料	-	-
資料	-	-
寄書	4	23
技術報告	1	14
解説	3	51
合計	12	146

「地震（ニュースレター部）」は第 77 巻 NL 1 号から NL6 号までを隔月で発行した。冊子体の発行部数は、各 750 部であり、1 号あたりの平均ページ数は 36 であった。掲載した主な記事の内容と件数は下記の通りである。また、冊子体を希望する会員へ「地震（ニュースレター部）」の冊子体を各号送付した。

種 類	件数
記事	47
受賞	1
シンポジウム報告	5
会員の声	2
書評	0
人事公募	6
学会記事	29
シンポジウム案内	4
補助金・助成金等案内	4
合 計	98

2. 2 欧文学術誌「Earth, Planets and Space」

欧文学術誌「Earth, Planets and Space」を、オープンアクセスのオンラインジャーナルとして、地震学会を含む関連 5 学会の共同で発行した。第 76 巻の一部が 2024 年 4 月から同年 12 月に刊行

され、第 77 巻の一部が 2025 年 1 月から同年 3 月に刊行された。種別ごとの件数は以下の通りである。

種類	件数
Comment	1
Correction	4
Express Letter	20
Frontier Letter	2
Full Paper	133
Preface	2
Technical Report	10
合計	172

2. 3 学会広報紙「なみふる」

広報紙「なみふる」の No.137 (2024 年 5 月)～No.140 (2025 年 2 月)を各 8 頁, 2,000 部発行した。記事の内容は下記の通りである。

号・発行月	記 事
137 号 2024 年 5 月 8 ページ	主な地震活動 2024 年 1 月～ 3 月 ◆鳥島近海から突然押し寄せた「謎の津波」の正体は ◆民間 GNSS 観測点の地震学への応用 ◆若手研究者による座談会 (下) イベント報告 ・ 2023 年度ジオパーク巡検報告～箱根火山と関東地震～
138 号 2024 年 8 月 8 ページ	主な地震活動 2024 年 4 月～6 月 ◆1994 年三陸はるか沖地震から 30 年 ―地震学が学んだこと― ◆能登半島周辺のテクトニクスと震源断層 ◆1964 年新潟地震で生まれた災害放送の原型 イベント報告 オンライン談話会―2024 年能登半島地震―の開催 イベント案内 日本地震学会 2024 年度秋季大会一般公開セミナー「新潟から神戸にかけておこる被害地震に迫る ―2024 年能登半島地震から考える―」のお知らせ
139 号 2024 年 11 月 8 ページ	主な地震活動 2024 年 7 月～9 月 ◆長野県西部地震から 40 年 ―ある地震観測の記録― ◆シリーズ「阪神・淡路大震災から 30 年」その①阪神・淡路大震災と関西の地震の怖さ ◆震源インバージョン解析のいま イベント報告 地震学夏の学校 2024 開催報告 教員サマースクール開催報告 平成 7 年 (1995 年) 兵庫県南部地震による災害のその後と今後の大地震への備え in Osaka

140 号 2025 年 2 月 8 ページ	主な地震活動 2024 年 10 月～12 月 ◆日向灘における大地震の発生履歴と特徴 ◆シリーズ「阪神・淡路大震災から 30 年」その②内陸地震の地震ハザード評価のための震源像の理解 ◆80 年前の災害をイメージし、未来の防災へつなげる～1945 年三河地震イベント報告 2024 年度ジオパーク巡検実施報告 ～佐渡ジオパーク～ 日本地震学会 2024 年度秋季大会一般公開セミナー「新潟から神戸にかけておこる被害地震に迫る –2024 年能登半島地震から考える–」開催報告
----------------------------------	---

2. 4 「日本地震学会メールニュース」の発行

速報性を要するイベント情報、公募情報、学会ウェブページ更新情報等を会員に迅速に伝えるため、毎月 20 日前後に「日本地震学会メールニュース」No.179～No.190 を発行した。

2. 5 「モノグラフ」の発行

2022 年度・2023 年度の特別シンポジウム等による活動成果を中心にモノグラフ第 7 号の編集作業を完了し、2024 年 4 月 26 日に発行した。また、南海トラフ地震臨時情報と防災対策に関する内容でモノグラフ第 8 号を企画し、原稿募集を開始した。

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰

3. 1 公益社団法人日本地震学会が設ける各賞の受賞者の表彰

日本地震学会賞

2023 年度及び 2024 年度授賞対象を 2024 年度秋季大会会場において表彰した。

2024 年度授賞対象として、理事会において下記の通り決定した。

受賞者：小平 秀一

授賞対象業績：先駆的な大規模稠密地下構造探査による沈み込み帯を中心とした地球内部変動現象の解明

日本地震学会論文賞

2023 年度及び 2024 年度授賞対象を 2024 年度秋季大会会場において表彰した。

2024 年度授賞対象として理事会において下記の通り決定した。

論文賞（3 編）：

- ・「地震動の物理学」の勘所

著者：瀬瀬 一起

掲載誌：地震第 2 輯(2022), 75, 57–81

- ・ Nationwide urban ground deformation in Japan for 15 years detected by ALOS and Sentinel-1

著者：Yu Morishita, Ryu Sugimoto, Ryosuke Nakamura, Chiaki Tsutsumi, Ryo Natsuaki and Masanobu Shimada

掲載誌：Progress in Earth and Planetary Science(2023), 10:66

・ Incoming plate structure at the Japan Trench subduction zone revealed in densely spaced reflection seismic profiles

著者：Yasuyuki Nakamura, Shuichi Kodaira, Gou Fujie, Mikiya Yamashita, Koichiro Obana and Seiichi Miura

掲載誌：Earth, Planets and Space(2023), 10:45

日本地震学会技術開発賞

2023 年度及び 2024 年度授賞対象を 2024 年度秋季大会会場において表彰した。

2024 年度授賞対象として理事会において下記の通り決定した。

・ 受賞者（氏名）または団体名：福山 英一，山下 太，徐 世慶，溝口 一生，川方 裕則，大久保 蔵馬，前田 純伶

授賞対象功績名：大型岩石摩擦試験機の開発と地震断層力学への貢献

・ 受賞者（氏名）または団体名：海底長期孔内観測システム開発チーム（構成員 荒木 英一郎，猿橋 具和，許 正憲，町田 祐弥，木村 俊則，北田 数也，辻 修平，横引 貴史，櫻井 紀旭，横山 貴大）

授賞対象功績名：海底長期孔内観測システムの開発による連続リアルタイム海底地殻変動観測の実現

日本地震学会若手学術奨励賞

2023 年度及び 2024 年度授賞対象を 2024 年度秋季大会会場において表彰した。

2024 年度授賞対象として理事会において下記の通り決定した。

・ 縣 亮一郎

授賞対象研究：地下構造の不均質性と不確実性に着目した革新的な計算科学・ベイズ推定手法を用いた研究

・ 小寺 祐貴

授賞対象研究：地震動伝播に基づく実践的な地震動即時手法の開発とその実装

・ 富田 史章

授賞対象研究：海底測地観測に基づいた沈み込み帯プレート境界すべりの解明

3. 2 公益社団法人日本地震学会学生優秀発表賞

日本地震学会 2024 年度秋季大会において、のべ 95 件の発表に対して、50 名からなる 2024 年度日本地震学会学生優秀発表賞選考小委員会を組織し、選考した結果、以下 10 名が受賞した。

- ・大舘 未来 東北大学大学院理学研究科（修士課程 1 年）
「2024 年能登半島地震の地震後地殻変動における粘弾性緩和とアフタースリップの寄与-超稠密 GNSS 観測網による検証-」
- ・大柳 修慧 京都大学大学院理学研究科（博士課程 6 年）
「Long-duration signal generated by volcanic activity at Nishinoshima detected by dense array observation at Hyuga Nada」
- ・小松 真喜 東京科学大学理学院（修士課程 1 年）
「能登半島群発地震における繰り返し地震分布の時空間的特徴」
- ・陣出 湧也 金沢大学大学院自然科学研究科（修士課程 2 年）
「深層学習を用いたテクトニック微動の検出と震央決定:南海沈み込み帯 Hi-net 観測点への応用」
- ・染矢 真好 東京大学大学院理学系研究科（修士課程 2 年）
「Physics-Informed Neural Network (PINN) による津波のデータ同化」
- ・垂水 洸太郎 北海道大学大学院理学院（博士課程 3 年）
「長周期遠地 P 波の偏向異常: 豪州大陸下の上部マントル方位異方性の推定」
- ・綱嶋 棕 東北大学大学院理学研究科（修士課程 1 年）
「東日本沈み込み帯の方位異方性トモグラフィー: 3 次元波線追跡法の影響」
- ・乗杉 玲壽 京都大学大学院理学研究科（修士課程 1 年）
「Multi-Scale Rate- and Roughness-Dependent Friction Realizes a Variety of Seismic-Aseismic Transitions」
- ・吉村 嶺 京都大学大学院理学研究科（修士課程 2 年）
「房総半島沖における群発地震検出と小規模なスロースリップとの関連の調査」
- ・渡部 熙 東京大学大学院理学系研究科（博士課程 1 年）
「紀伊半島における三次元深部電気比抵抗構造に基づいた深部低周波微動発生領域の特徴」

3. 3 海外渡航旅費助成

公益財団法人地震予知総合研究振興会の助成により、所定の手続きを経て、学術的な目的の海外渡航のために、下記の通り前期 1 名（応募者 1 名）、後期 2 名（応募者 4 名）に助成を行った。

氏 名 (所 属)	海 外 渡 航 目 的
(前期 A 助成) 上田 拓 (京都大学)	グルノーブルアルプス大学 在外研究 2024 年 5 月 18 日～7 月 7 日
(後期 A 助成) 船曳 祐輝 (京都大学)	AGU24 Annual Meeting (ワシントン D.C.) 出席 2024 年 12 月 9 日～12 月 13 日
(後期 A 助成) 石丸 雄理 (北海道大学)	AGU24 Annual Meeting (ワシントン D.C.) 出席 2024 年 12 月 9 日～12 月 13 日

3. 4 その他

第 15 回「日本学術振興会 育志賞」候補者の会員への推薦公募を行った。

第 41 回（2024 年度）井上学術賞候補者の会員への推薦公募を行った。

令和 7 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞候補者の会員への推薦公募を行い、日本地震学会若手学術奨励賞受賞者の中から 2 名を推薦した。

令和 7 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞候補者および文部科学大臣表彰研究支援賞候補者の会員への推薦公募を行った。

東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成に関する募集を行った。

朝日賞候補者の推薦について会員への推薦公募を行った。

公益財団法人山田科学振興財団 2025 年度研究援助候補者の会員への推薦公募を行い、応募のあった 1 件について推薦の検討を行い、日本地震学会からの推薦とした。

第 66 回藤原賞受賞候補者の会員への推薦公募を行った。

第 22 回日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について会員への推薦公募を行った。

令和 8 年春の科学技術に関する黄綬・紫綬・藍綬褒章受賞候補者の会員への推薦公募を行った。

4. 内外の関連学術団体との協力・連絡

4. 1 国際学会等との連携

IASPEI（国際地震学及び地球内部物理学協会）及び関連する IUGG（国際測地学・地球物理学連合）、ASC（アジア地震学会）と情報交換を行った。

4. 2 日本地球惑星科学連合の活動

公益社団法人日本地球惑星科学連合の団体会員として、連合加盟学協会との協働による関連分野の学術振興に向けた活動を進めた。

4. 3 関連学術団体との会長懇談会等

公益社団法人日本地震工学会会長との会長懇談会を 2024 年 9 月 30 日に建築会館でハイブリッド開催した。両学会の現状や学会活動の課題等について意見および情報交換を行い、引き続き懇談会の場を設けることとした。

4. 4 日本ジオパーク推進活動の支援

日本ジオパーク学術支援連合(JGASU)の委員を 2024 年 4 月 30 日まで中川和之前理事が、同年 5 月 1 日から土井恵治現理事がそれぞれ務めた。

4. 5 防災学術連携体の活動

一般社団法人「防災学術連携体」の団体会員として総会・連絡会・研究会に出席し、防災減災・災害復興に関する他学協会との連携を推進した。

令和6年能登半島地震7ヶ月報告会

期日：2024年7月30日

会場：オンライン開催

主催：一般社団法人防災学術連携体

日本学術会議 防災減災学術連携委員会 第6回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」ー令和6年能登半島地震災害における課題と教訓ー

期日：2024年8月22日

会場：オンライン開催

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会

対象：日本学術会議 防災減災学術連携委員会，防災学術連携体の63学協会，防災に関わる府省庁の担当者

防災推進国民大会2024セッション/日本学術会議学術シンポジウム/第19回防災学術連携シンポジウム 土地を知り，土砂災害・地盤災害に備える

期日：2024年10月19日

会場：オンライン開催

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会，一般社団法人 防災学術連携体

防災学術連携体シンポジウム 阪神・淡路大震災30年，社会と科学の新たな関係

期日：2025年1月7日

会場：オンライン開催

主催：一般社団法人防災学術連携体 阪神・淡路大震災30年シンポジウム実行委員会

4. 6 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会

福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会に参加し情報収集等を行った。

4. 7 理学・工学系学協会連絡協議会

理学・工学系学協会連絡協議会に参加し，関連学協会の情報収集を行った。

4. 8 地学オリンピックへの協力

地学オリンピック日本委員会からの依頼により作問者の推薦を行ったほか，協賛金の支援を行った。

4. 9 地震火山地質こどもサマースクール開催のための協力

日本火山学会，日本地質学会とともに地震火山地質こどもサマースクール3学会連合企画委員会を運営し，地震火山地質こどもサマースクール開催のため協働し活動を行った。

4. 10 シンポジウム等の共催・協賛・後援

以下にあげる講演会・シンポジウム等の協賛，後援を行った．

協賛： GPS/GNSS シンポジウム 2024

期日：2024 年 10 月 30 日（水）～11 月 1 日（金）

会場：東京海洋大学 越中島会館 2 階

主催：一般社団法人 測位航法学会

第 65 回高圧討論会

期日：2024 年 11 月 13 日（水）～15 日（金）

会場：いわて県民情報センターアイーナ

主催：日本高圧学会

海洋調査技術学会 第 36 回研究成果発表会

期日：2024 年 11 月 19 日（火）～20 日（水）

会場：東京海洋大学越中島キャンパス 85 周年記念会館

主催：海洋調査技術学会

第 12 回中部ライフガード TEC2024～防災・減災・危機管理展～

期日：2024 年 11 月 28 日（木）～29 日（金）

会場：ポートメッセ名古屋

主催：名古屋国際見本市委員会，（公財）名古屋産業振興公社

第 16 回岩の力学国内シンポジウム：JSRM2025

期日：2025 年 1 月 14 日（火）～16 日（木）

会場：熊本城ホール

主催：岩の力学連合会

地震防災フォーラム 2024

期日：2025 年 1 月 15 日（水）

会場：関西大学梅田キャンパス

主催：関西地震観測研究協議会

後援： 物理探査学会第 150 回春季学術講演会

期日：2024 年 6 月 4 日（火）～6 日（木）

会場：早稲田大学国際会議場

主催：公益社団法人物理探査学会

科学教育研究協議会 第 70 回全国研究大会いわて花巻大会

期日：2024 年 8 月 4 日（日）～6 日（火）

会場：花巻市立花巻中学校

主催：科学教育研究協議会

The 26th Electromagnetic Induction Workshop (EMIW2024)

期日：2024 年 9 月 7 日（土）～13 日（金）

会場：別府国際コンベンションセンター

主催：IAGA Division VI

計算力学の基礎

期日：2024 年 9 月 10 日（火）～11 日（水）， 9 月 17 日（火）～18 日（水）

会場：かながわサイエンスパーク内講義室／東京大学本郷キャンパス

主催：地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所

先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2024

期日：2024 年 11 月 20 日（水）～21 日（木）

会場：グランメッセ熊本

主催：先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2024 開催委員会

日本学術会議シンポジウム 阪神淡路大震災 30 年

ーその後の日本社会をいかに変えたかー

期日：2025 年 1 月 15 日（水）

会場：日本学術会議講堂（ハイブリット開催）

主催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会

原子力総合シンポジウム 2024

期日：2025 年 1 月 20 日（月）

会場：日本学術会議講堂およびオンライン開催

主催：日本学術会議 総合工学委員会，総合工学委員会原子力安全に関する分科会

講演会「阪神・淡路大震災から 30 年ー地震工学の再定義と今後のアジェンダー」

期日：2025 年 1 月 24 日（金）

会場：日本建築学会 建築会館 ホールおよびオンライン開催

主催：公益社団法人日本地震工学会

災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第 3 次）令和 6 年度成果報告シンポジウム

期日：2025 年 3 月 5 日（水）～7 日（金）

会場：東京大学武田先端知ビル内・武田ホールおよびオンライン開催

主催：地震・火山噴火予知研究協議会

5. その他

5. 1 日本地震学会ウェブサイトの管理・運営

学会の活動の広報および社会への学術的な知識普及のために学会ウェブサイトの掲載内容の更新を行った。

5. 2 なみふるメーリングリスト (nfml) の運用

地震研究者と一般の方々との意見交換の場として、なみふるメーリングリスト nfml を引き続き運用、メーリングリスト参加者同士の情報・意見交換を支援した。昨年度報告後、2024 年 4 月 1 日以降 2025 年 3 月 31 日までに 141 件の投稿があった。また、広報委員会等で nfml の運営および広報活動について議論を行った。

5. 3 記者懇談会

記者懇談会を、JpGU2024 および地震学会秋季大会において対面にて開催した。内容は以下の通り。

・第 55 回記者懇談会 2024 年 5 月 27 日（月）17 時 45 分～18 時 45 分 幕張メッセ国際会議場 1 階 101 室

小原一成会長による地震学会の活動紹介に続いて、佐藤比呂志 東京大学名誉教授による「日本海の地震・津波と震源断層モデルー能登半島地震を例として」と題した講演を行った。参加者数は 20 名であった。

・第 56 回記者懇談会 2024 年 10 月 21 日（月）18 時 45 分～19 時 45 分 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター3 階中会議室 301

久家慶子会長による地震学会の活動紹介に続いて、佐竹健治 東京大学名誉教授による「日本海沿岸の海底活断層と津波」と題した講演を行った。参加者数は 19 名であった。

5. 4 地震学 FAQ

広報委員会やメーリングリスト nfml に寄せられた一般の方からの質問で頻度の高いものから FAQ 集を作成し、本学会ウェブサイト上で公開している。

II. 参考事項

1. 定時社員総会の開催

公益社団法人日本地震学会は 2024 年度定時社員総会を開催し、2023 年度の事業報告書と収支決算報告書、役員の選任、役員の報酬の議案を承認した。

・2024 年度定時社員総会

日時：2024 年 5 月 30 日（木）18 時 00 分～18 時 40 分

場所：幕張メッセ国際会議場 103

総社員数：140 名

出席社員数：出席代議員総数 121 名（内訳：本人出席 48 名，議決権行使書出席 73 名）

2. 理事会の活動

公益社団法人日本地震学会は，2024 年度末までに以下のように計 7 回理事会を開催し法人の業務執行に必要な議決等を行った。

・2024 年度第 1 回理事会

日時：2024 年 5 月 7 日（水） 13 時 30 分～16 時 00 分

場所：Zoom を利用したオンライン会議で開催

理事数：15 名

出席者：理事 13 名，監事 2 名

決議事項：事業報告書案，収支決算書，2024 年度定時社員総会の開催，著作権譲渡同意書の改定，技術開発賞規定・選考要領の改定，入会承認

・2024 年度第 2 回理事会

日時：2024 年 5 月 30 日（木） 18 時 40 分～18 時 42 分

場所：幕張メッセ国際会議場 103

理事数：15 名

出席者：理事 13 名，監事 2 名

決議事項：会長（代表理事）選定，副会長及び常務理事選定

・2024 年度第 3 回理事会

日時：2024 年 7 月 30 日（火） 9 時 30 分～13 時 05 分

場所：Zoom を利用したオンライン会議で開催

理事数：15 名

出席者：理事 15 名，監事 2 名

決議事項：理事の役割分担，学会賞受賞者の決定，地学オリンピックへの協賛，「地震」の投稿言語および WEB 公開方針，入会承認

・2024 年度第 4 回理事会

日時：2024 年 9 月 9 日（月） 13 時 30 分～17 時 00 分

場所：Zoom を利用したオンライン会議で開催

理事数：15 名

出席者：理事 13 名，監事 2 名

決議事項：令和 6 年度日本地震学会特別シンポジウムの開催，事務局職員俸給月額表等の見直し，

EPS 誌の来年度の分担金，入会承認

・ 2024 年度第 5 回理事会

日時：2024年11月26日（火） 9時30分～12時20分

場所：Zoom を利用したオンライン会議で開催

理事総数：15 名

出席者：理事 14 名，監事 3 名

決議事項： 会員向けアンケート調査依頼の取り決め，地震学夏の学校臨時委員会の設置，IASPEI 委員会の名称変更，国立大学教育研究評価委員会専門委員候補者および機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦，一般社団法人「国土デジタル情報研究所地質地盤情報の活用と法整備を考える会」協力会員登録，「地震」日向灘特集の招待論文経費，入会承認

・ 2024 年度第 6 回理事会

日時：2025年1月21日（火） 9時30分～12時40分

場所：Zoom を利用したオンライン会議で開催

理事総数：15 名

出席者：理事 13 名，監事 2 名

決議事項：IASPEI 関連事業基金の使用，著作権規定の改定，入会承認

・ 2024 年度第 7 回理事会

日時：2025年3月3日（月） 9時30分～13時00分

場所：Zoom を利用したオンライン会議で開催

理事総数：15 名

出席者：理事 13 名，監事 2 名

決議事項：将来構想検討 WG の設置，学会賞選考委員の選任，定款第 18 条第 7 項による監事の役員報酬，事務局職員給与，事務局職員賞与，事業計画書案，予算書案，2025 年度倫理委員会の委員，入会承認

3. 各委員会の活動

公益社団法人日本地震学会の各委員会は，会合の開催，電子メール等を通して意見の交換を行いつつ，それぞれの業務を積極的に執行した。

3. 1 地震編集委員会

第 1 回委員会を 2024 年 6 月 18 日にオンライン形式で開催し，学会誌「地震」についてこれまで和文のみであったが英語論文を可とすること，「地震」から出版された論文について一般に公開するまでの期間を 3 年間から 1 年間に短縮することなどを決定した。また，奨励賞等の受賞者に対し，「地震」に受賞記念論文を執筆することを強く勧めることを決議した。

第 2 回委員会を 2025 年 3 月 24 日にオンライン形式で開催し，前回の委員会で英語論文を可とし

たことへの対応，具体的には投稿細則や投稿原稿チェックシートの改訂などを行った．また，著者が多数の場合の文献リストでの表記法の明確化や論文概要の説明文を長くすることなどを決定した．加えて，地震学会論文賞候補として推薦する論文を決定した．

3. 2 大会・企画委員会

4 回（2024 年 4 月 4 日，7 月 10 日，9 月 11 日，11 月 27 日）開催された委員会及びメーリングリスト等において，秋季大会の準備やプログラム編成，連合大会の地震学関連セッションのプログラム編成等を行った．

3. 3 広報委員会

学会の活動の広報と地震研究成果の社会への普及のために，地震学会広報紙「なみふる」を季刊で発行した．委員会を 4 回開催し，広報のありかたについて検討を行った．広報委員会に寄せられた質問や依頼に対する回答を行った．2024 年 4 月から 2025 年 3 月までの 1 年間の質問・依頼件数は 10 件であった．学会ウェブサイトを活用し，ニュースレターに掲載した各種情報や「なみふる」の電子版を掲載した．nfml メーリングリストを運営し，地震研究者と一般の方が議論を行う場を設けた．さらに，JpGU，地震学会秋季大会の際に記者懇談会を開催した．

3. 4 欧文誌運営委員会

欧文学術誌「Earth, Planets and Space」（EPS）を関連 5 学会で引き続き刊行した．また，日本地球惑星科学連合と共同し，海外の学会などにて EPS 誌の周知・普及をはかった．

3. 5 学会情報誌編集委員会

学会内広報として情報・諸行事等の周知を図るため，隔月で年 6 回「地震（ニュースレター部）」を発行した．さらにそれを補完し，速報性を要するイベント情報，公募情報，学会ウェブページ更新情報等を会員に迅速に伝えるため，日本地震学会メールニュースを毎月 1 回発行した．

3. 6 強震動委員会

講習会班（強震動予測に関する講習会を開催），研究会班（強震動研究会を開催），NL 連載班（「地震（ニュースレター部）」の連載企画を検討），単行本化チームを構成し，関連の活動を行った．班相互の連絡・調整，各委員からの情報交換等のため，4 回の委員会を開催し，地震（ニュースレター部）に活動報告を行った．なお委員会は，対面とオンラインのハイブリッドで 2 回，対面のみ，オンラインのみでそれぞれ 1 回実施した．

第 23 回強震動講習会は 2024 年 11 月 25 日にハイブリッド形式で実施した（1. 5 を参照）．

強震動研究会は，2024 年 10 月 20 日に第 43 回（新潟大学・片桐昭彦氏による「前近代における地震と史料」）を朱鷺メッセ 3 階中会議室 301 にて対面方式で，2025 年 3 月 4 日に第 44 回（NPO 法人日本防火技術者協会・関澤 愛氏による「大規模地震と市街地延焼火災のリスク～1995 年阪神・淡路大震災の教訓を再確認する～」）を東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室 AB とオンラインのハイブリッド形式で開催した．第 43 回には日本地震学会から 31 名が参加し，第 44 回には日本地震学会内外から 59 名が参加・聴講した．また，「地震（ニュースレター部）」での新しい連載について検討した．さらに過去の連載「新・強震動地震学基礎講座」の単行本化を進め

た。

3. 7 学校教育委員会

地震学と学校教育との橋渡しを担うことを目的として、以下のような活動を行った。

委員会会合を計6回、オンラインのほか大会や行事実施時を利用して対面でもうち3回を開催した。今年度の事業実施体制、来年度の行事予定などを協議した。今年度は、教員サマースクール（1. 6参照）と地震の教室（1. 7参照）といった普及活動を実施した。その他、公益社団法人日本地球惑星科学連合の教育検討委員会に委員を派遣し、継続的に活動への協力を行った。

3. 8 災害調査委員会

一般社団法人防災学術連携体の活動に参画し、2025年1月7日に開催されたシンポジウム「阪神・淡路大震災30年、社会と科学の新たな関係」において会長が講演した。2025年3月10日に開催された第27回Web研究会に出席した。日本地球惑星科学連合の環境災害対応委員会および、地震被害調査関連学会連絡会の活動に参画し、他学会との連携を図った。地震学を社会に伝える連絡会議と連携して、特別シンポジウムを2025年2月22日に徳島大学にて開催した。

3. 9 普及行事委員会

日本火山学会、日本地質学会とともに継続して開催している「地震火山地質こどもサマースクール」のサマースクール三学会連合企画委員会、地震火山地質こどもサマースクール運営委員会の幹事学会として、各学会のスタッフと共同で事業を推進した（本年度は1. 8の通り）。また、2026年度以降の開催予定地の公募を行った。各学会と連携し、よりよいサマースクールの運営・実施体制等について検討した。2024年度は、火山学会の「第3回全国火山実験研究交流会」に地震学会の普及行事員として参加しサマースクールで開発した実験を紹介し交流を深めた。

3. 10 海外渡航旅費助成金審査委員会

「2024年度（後期）海外渡航旅費助成金の公募について」を「地震（ニュースレター部）」第77巻第NL2号とウェブサイトに、「2025年度（前期）海外渡航旅費助成金の公募について」を「地震（ニュースレター部）」第77巻第NL5号とウェブサイトに掲載するとともに、メールニュースにおける周知も行うことで本助成金の公募を行った。2024年度後期対象の助成については4名の申請に対する審査を行い、2名に助成を行った。2025年度前期対象の助成については申請者2名の申請に対する審査を行い、2名への助成を決定した。

3. 11 IASPEI 委員会

日本学術会議IUGG分科会と連携しながら、IASPEIおよび各種国際会議等に係る情報交換や活動を継続的に行っている。2024年度、本委員会は、秋季大会時に1回（10月21日）開催した。本委員会が地震学会の国際対応の窓口としての機能を担っていることから、それに見合った名称にした方がよいとのことから、2025年度より委員会の名称を国際委員会（International Committee）への変更を理事会に提案することを決定した。また、本委員会がThe International Federation of Digital Seismograph Networks（FDSN）に関連する活動に対し正式な後盾として継続的にサポートするために、委員1名を新たに加え、本委員会担当委員としてFDSNの会議や部会等に参加しても

らうことを決めた。2024 年 11 月 4～6 日にはトルコ・アンタルヤで ASC 第 15 回 General Assembly が開催され、ASC 第 1 副委員長である大久保委員による報告記事を地震（ニュースレター部）第 77 巻第 NL5 号「シンポジウム報告」に掲載した。また、同第 NL5 号「シンポジウム案内」には、本委員会から、2025 年 8 月 31 日～9 月 5 日にポルトガル・リスボンで開催される IAGA/IASPEI 合同大会への参加案内も掲載した。IAGA/IASPEI 合同大会についてはメールニュースでも会員へ周知した。

3. 1 2 ダイバーシティ推進委員会

日本地球惑星科学連合のダイバーシティ推進委員会の活動に参加し、情報等を収集して、外部機関に対する地震学会の窓口としての役割を果たした。日本地球惑星科学連合 2024 年大会の開催にあわせて、保育託児利用補助の募集を行った。2024 年秋季大会での託児室運営および利用補助を実施した。学会員の提案や問題等を広く収集するために、ダイバーシティ推進委員会のメールアドレスは学会員専用ホームページで引き続き公開している。

3. 1 3 倫理委員会

会員へ地震学者の行動規範の遵守について周知を図った。

3. 1 4 表彰委員会

委員会の活動は主にメールでの意見交換及び審議を行った。その他、秋季大会での授賞式の運営及び外部の助成金や表彰制度への推薦対象者の公募・推薦を行った。

3. 1 5 地震学を社会に伝える連絡会議

「社会に対して“等身大”の地震学の現状を伝えていくこと」を目的に、普及行事委員会、学校教育委員会、広報委員会、強震動委員会、ジオパーク支援委員会、大会・企画委員会、学会情報誌編集委員会、災害調査委員会、地震編集委員会からの連絡委員、および、ウェブサイト、地震予測・予知問題、特別シンポジウム・オンライン談話会企画運営、モノグラフ刊行を担当する委員をメンバーとして計 4 回の会議を開催した。モノグラフ第 7 号「等身大の地震学をどう社会に役立てるか」を 2024 年 4 月 26 日に発行した。2024 年 8 月に運用開始後初めて発表された「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」に対して、「南海トラフ地震臨時情報への対応計画」に則り、連絡会議にて情報収集や連絡調整をおこなった。具体的には、2024 年日向灘の地震・南海トラフ巨大地震に関連する論文等の紹介ページの公開、特別シンポジウムの企画およびモノグラフ第 8 号の企画検討・原稿募集（2025 年 2 月 21 日）、を開始した。北海道・三陸沖後発地震注意情報への対応計画について議論し、学会のホームページにて公表した。各委員会等で進められている社会活動の情報交換と地震学の広報に関する連携、秋季大会における社会活動を紹介するポスター展示、および、特別シンポジウム（2025 年 2 月 22 日）を開催した。

3. 1 6 ジオパーク支援委員会

日本各地のジオパーク活動の支援を通じて、地震学の知識の普及と啓発、研究の促進に寄与するため、以下のような活動を行なった。委員会会合を 2024 年 7 月および 2025 年 2 月に開催し、今年度の事業実施、来年度の事業計画などについて協議した。日本地球惑星科学連合 2024 年大会にお

いて「ジオパーク」セッションの企画・運営に携わった。2024 年 8 月 30 日～9 月 1 日に下北ジオパーク（むつ市）で開催されたジオパーク全国大会において、「地震学習会」「地震だねっと！」など地震学会でのジオパークに対する取り組みの紹介等を行った。2024 年 10 月 24 日に佐渡ジオパークの協力を得てジオパーク巡検を開催し、16 名の会員（うち、学生会員 5 名）と 1 名の非会員の計 17 名が参加した。2024 年 11 月 22 日にジオパーク専門員等を対象とした地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学 8」をオンラインで開催し、約 50 名の参加者があった。

3. 17 機関連絡員

各機関での人事異動や学位論文などに関する情報収集を行った。

4. 会員の現況

本年度末現在の公益社団法人日本地震学会の会員数及び前年度比の増減は次の通りである。

会 員 種 別	名誉会員	正会員 (内、学生会費適用会員)	賛助会員	合計
2023 年度末会員数	17 [1]	1624 [176]	54	1695
		(201) [43]		
2024 年度末会員数	14 [1]	1613 [180]	54	1681
		(217) [44]		
増減	-3	-11	0	-14

() 内の数値は学生会費適用会員数, [] 内の数値は女性会員数

6. 役員

本年度公益社団法人日本地震学会の役員は、次の通りである。なお、全員非常勤である。

理事（会 長）	久家 慶子	会務の総理・倫理担当・国際担当
理事（副会長）	加藤 愛太郎	総務、財務統括・連絡会議担当（正）・連合担当
理事（副会長）	室谷 智子	連絡会議担当（副）・ダイバーシティ推進担当
理事（常務理事）	宮澤 理稔	総務担当
理事	浅野 陽一	会計担当
理事	加納 靖之	学校教育担当・普及行事担当
理事	篠原 雅尚	広報担当
理事	武村 俊介	学会情報誌編集担当
理事	土井 恵治	ジオパーク支援担当
理事	中原 恒	強震動担当
理事	西田 究	大会・企画担当
理事	馬場 俊孝	災害調査担当・社会活動担当

理事	廣瀬	仁	欧文誌担当
理事	深畑	幸俊	地震編集担当
理事	八木	勇治	海外渡航旅費助成金審査担当・表彰担当
監事	植竹	富一	
監事	谷岡	勇市郎	
監事	鈴木	善和	（定款第 18 条第 7 項による監事）

(2024 年 5 月 30 日就任)

2024 年度事業報告書の附属明細書

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

2024年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34 条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しない。